# 憧れの古都首里への玄関口

# 平良町

首里平良町はもともと西原間切平良村でしたが、一九〇六年首里に編入され、一九一四年平良町へ改称。むかしは浦添・中城など中部エリアから首里へとやって来る人々に『テェーラ・マチ』の愛称で親しまれ、様々な店が軒を連ね栄えていたそうです。

## 太平橋（テェーラバシ）

中でも最も賑わいを見せていたのが太平橋界隈。首里城から中頭・国頭へと通じる西海道＝西宿に架かるこの橋は首里四大大橋のひとつとしても知られ、一六〇九年の薩摩侵攻で最後の戦いが行われた歴史的な場所でもあります。

もともとは石造りのアーチ橋だったが、沖縄戦で破壊され、現在はコンクリート橋に。

## 羽地御殿の墓（ハニジウドゥンヌハカ）

薩摩との戦いで敗北した琉球は一気に国力を失います。敗北のショックから役人はやる気をなくし、薩摩への借金も増え、機能不全に陥っていきました。このままでは琉球が滅びてしまうと危機感を抱いたのが羽地朝秀です。

一六六六年、朝秀は摂政という国政の最高ポストに着くや、大胆な改革を次々に敢行。

彼がまず行ったのは王府組織の再編、政教分離でした。それまでの琉球は政治と祭祀が混然一体となっていましたが、朝秀はこの非合理的ともいえるシステムにメスを入れ、王府から神女・聞得大君を排除し、神女の給与を削減。国王の久高島参詣も廃止しました。

「私のやり方に文句のある者がいれば、相手になってやろう。私の身は少しも惜しくない」という言葉が残っているように、保守派からの猛反発と圧力を受けながら様々な行政改革を敢行した朝秀。彼は古琉球の伝統、システムを解体しながら、同時に現在の沖縄の文化とも言える門中や芸能の基礎を確立し、琉球王国の初の正史である「中山世鑑」を作りました。「羽地仕置」は三司官時代からの布達文書をまとめたもので、日本と琉球はひとつの民族であると説いた有名な「日琉同祖論」もこの中に記されています。

朝秀が行った様々な改革は蔡温に引き継がれ完成することになります。

緑がうっそうとし、厳かな空気が流れる羽地御殿の墓。

## 宮古井戸（ナーク）

遠く宮古島から太平橋の大改修工事に連れて来られた人々が、平良村の人々に親切にしてもらったお礼にと、井戸を石積みに改修したことから、「ナークガー」の呼び名がついたと言われています。現在は使われていませんが、井戸の中を覗いて見ると今も美しい湧水が湛えられていることがわかります。

幅2.5メートル、深さ4メートル、奥行き二メートルほどの割と大きな共同井戸。中をのぞくと沖縄戦でも破壊を免れたどっしりとした石組みを見ることができる。

## 殷氏仲松家之墓（インウジナカマチヌハカ）

わずか十二歳で宮廷画家となった「神筆」の異名を持つ水墨画絵師・殷元良（インゲンリョウ）仲松庸昌（ナカマツヨウショウ）の祖先と同一宗家の墓。殷元良がこの墓に納められているかどうかは不明。ちなみに仲松家はチャトージャ（茶湯座）仲松とも呼ばれ、王府内の茶道職にあったそう。

羽地朝秀の墓へ向かう途中にある。ここから奥の大名方面に向けては広大な墓地が広がっている。

## 中之毛（ナーカヌモー）

現在の平良町公民館がある広場のこと。村のほぼ中央に位置していたことから「中之毛」と呼ばれていました。旧暦七月には島内の屈強な力士が集まって角力（相撲）大会が行われたり、旧暦十月には村の長老を子供たちが転ばせて供え物を取り合うウスメークルバシ（豊作祈願）が行われるなど、様々な行事で賑わいました。現在もゲートボールなど地域の人々の交流の場となっています。

## 高平良御鎖の屋敷跡（タカデェーラウザシヌヤシチあと）

この組踊が実話かどうかは不明ですが、適役として登場する高平良御鎖の屋敷跡と言われています。首里の町を一望できる高平良山にあり、ここから末吉宮へと続く道は、ところどころに石畳も残り、軽い起伏もあって、お散歩にはもってこいの歴史街道です。

名馬を逃し恨みを募らせた高平良御鎖の屋敷跡。平良町には実際、馬場「平良馬追い跡」もあった。

## 組踊「万歳敵討」

田里朝直作の人気仇討組踊。「高平良万歳」とも言われる。名馬が得られなかった恨みから高平良御鎖は大謝名の比屋を闇討ちします。親を殺された兄弟は高平良を討とうと、万歳になりすまし浜下り中の彼を狙うのだが…。

## 首里城及び首里城下町のMICE

首里はコンパクトな街の中に魅力的な文化資源が多数点在しています。王国の繁栄を映す文化財の数々、圧倒的な存在感を誇る首里城と首里城公園、かつての産業の集積と技術の高さを伝承する伝統的な工芸品の工房や酒造所など、MICEの開催地として大きな可能性を持っている街です。MICEというと、大型で国際的な会議を思い浮かべる方が多いと思いますが、実はもっと身近なものです。MICEの大半は、社員のやる気を引き出したり、社員間のコミュニケーションを高めたりする企業の事業活動が主流です。首里の街の皆さんの参画を得て、地域への波及効果の高い魅力的なMICE開催地にしていきたいと思います。首里に滞在して成果をあげるMICEの誘致と設計に力を注いでいきます。

株式会社DMC沖縄
代表取締役社長　徳田博之

沖縄本島北部での実施例

**MICE（マイス）とは？**

- 企業等の会議・研修（Meeting）
- 企業の行う報奨・研修旅行（Incentive Travel）
- 国際会議（Convention）
- イベント・展示会・見本市（Event/ Exhibition）

の総称です。